# 福岡縣水稻旱害概況（昭和九、八、一五、現在調）

本年縣下に於ける水稻は苗代季以降未曾有の旱魃の爲挿秋は一般に十日乃至三十日の遲延を來し七月末に至り漸く終了を見たるも爾來今日迄殆ど降雨なく全く旱害を蒙らざる地方は筑後川流域の一部に過ぎずして他は概ね激甚なる旱害に見舞はれ水稻の燒死するもの田面の龜裂するもの日毎に其の度を增し數を增すの現狀にして被害農家は挿秋以來全く膳食を離れ凡ゆる手段方法を盡し灌水に全力を注ぎつゝありしが今や全く水源涸渇し只天を仰ぎ自然に放任するの余儀なきもの多く實に見聞に忍びざる慘狀を呈しつゝあり然るに一面に於ては之等の農家は勿論關係當局に於て銳意之が應急恒久對策實現に萬全の努力を傾注しつゝあり八月十五日現在にける縣下の水稻旱害狀況は別表の通にして被害總面積は田總面積の實に約五割に當る尙地方別に觀れば豐前最も被害著しく